

山行報告

■三木山森林公園

- 日 程：7月10日（日）
- 参加者：L 砂川(延) SL 田羅間 阿部 生永 内海 大谷 貝塚(陽) 黒本 佐野 澤田(卓)
澤田(律) 砂川(美) 橋本(万) 春本 福原 松本(聡) 矢根
- 行動記録：三木山森林公園正面前 10:05 発～下池(10:55 着)11:05 発～三木山森林公園正面前(11:55 着)12:00 発～味彩苑(12:15 着)13:15 発～ホースランドパーク (13:35 着)14:05 発～解散 14:15

◆三木森林公園、あじさい園、ホースランドパーク山行に参加して

橋本(万)

本日は山遊会年長組中心のトレッキングということで、近年顔を合わせてなかったメンバーさんらとゆっくりゆったり楽しむことができました。コースも長年のメンバーで三木山森林公園を「私の庭」のようによく歩かれているという三木市在住の T さんの案内で駐車場の入り口脇から森の道へ入って行きました。三木山森林公園は県立公園で整備もされており加古川からも近い距離なのにあまり来てなかったのもったいなかったなあ…。コースとしてはシダ類が生い茂る森の中の道を樹木や草のいろいろ変わっていく香りを楽しみながら歩きました。歴史や地理が好きな U さんは「昔は海が近かったのか海砂利が多いなあ」とか、池の中でプクプク泡立つ様子を見て何の生物か興味を抱いたり、睡蓮の花の群生を写真に納めたり…とか自然を味わえるトレッキングになりました。お昼は車で場所を変えて [あじさいフローラみき] 園内の【味彩苑】でランチバイキング。また車で移動してホースランド [エオの森] で食後の散策



と続けました。馬場では多くの観客の中、障害物競走が行われていたり、散策途中に乗馬トレーニングする三頭の馬に出会ったり、と珍しい体験をしたのですが、私は久しぶりのランチバイキングでつい食べ過ぎて体調を崩してしまい午後からの行動はマズい状態に陥っていました。ご迷惑をおかけした T さん K さん申し訳ありませんでした。という中で解散しまし

たが、本日の山行計画していただいた砂川会長はじめ案内してくださった T さん、会計の Y さんありがとうございました。

◆三木森林公園を歩いて

阿部

道の駅三木には、何回も寄った事があるのですが、すぐ側にこんなに良く整備された公園があるとは知りませんでした。市民の憩いの場になっている様です。

姫路からの参加が 2 組との事で、S 御夫妻の車に同乗させて頂き少し早目に公園に着きました。

平坦な公園の道を歩くと思い込んでいたのですが、駐車場から直ぐ山道へ入ったので、びっくりしましたが、道も良く整備されていて、何より丘を登ったり降りたりみたいな感じで歩けるので、何時もみたいに、呼吸がハハハアする事なく、木々の間を陽の光を浴びながら、気持ち良く歩く事が出来ました。唯一つしんどかったのが、湿度が高かったので、汗が滝の様に流れていました。でも、汗も暑い時でもある程度は出しておかないと冷房症になる危険性もあるので、身体には、良い刺激になったとおもいます。

ランチは、バイキングでしたが、味も良く、皆さんと食べると一味美味しく感じました。フルーツとアイス迄頂きましたよ。

後半に、もう少しホースランドの方を歩くと言われたのですが、私と S 氏は、研修センターで皆さんを待つ事にして少し休みました。30 分程して皆さん汗びっしょりになって帰って来ましたが皆さん笑顔でした。

森林公園の最後の方で、会長夫人とお話しをしたのですが、山登りは、絶体に辞めたらあかんど言われました。登山する人達は、皆さん、強い自分の信念を持って行動力もあり筋も 1 本通っていて、決断力のある強い方ばかり、人生を楽しんで登山してますよと、私もそう思います。これからも楽しんで皆さんと無理せず登山したいと思っています。宜しくお願いします。

リーダーを始め、ご一緒して頂いた皆さんありがとうございました。

ウォークコースの中は、池や蓮の花、季節の花々や木々、香りの小径やテント場等家族連れでも楽しめそうです。

■国民平和大行進

●日 程：7月13日(水)

●参加者：行程①：天野 砂川(延) 須増 藤原(千) 三木(悦) 森本 矢根
行程②：天野 上田 大谷 砂川(延) 藤原(千) 松下 三木(悦) 森本

●行動記録：行程①：高砂市中央公民館 9:00～山電大塩駅前 11:00

行程②：山電飾磨駅北側 12:00～姫路市役所 13:00～大手前公園（姫路城前）
14:30

◆2022年・国民平和大行進に参加して

須増

昨年のコースは山電飾磨駅から大手前公園までだったが、今年は高砂中央公民館から山電大塩駅までの行進が前半に追加された。高砂中央公民館では集会が行われた後、9時過ぎに出発した。前半の労山会員の参加者は9名だった。3年続きのコロナ禍の中、今年も“サイレント行進、となった。山電大塩駅から次のスタート地点である山電飾磨駅への移動する約1時間で

昼食を摂る必要があったが、（この日が水曜日に当たり）大塩駅周辺の数少ない食事処は閉店で結局は飾磨駅で摂ることになった。午後は、姫路市役所経由の行進であったが、私は前半の行進のみ参加させてもらった。

この日、高御位山遊会からは10名が参加した。このコースは労山所属会の参加者も多く、姫路からの労山全体の参加者は29名だった。

今年2月、国際的な大きな出来事として「ロシアのウクライナ侵攻」があった。ロシア則は、ウクライナに越境して、原発の攻撃や核の使用を戦争の武器とするなど脅威を与えている。戦争を仕掛けること自体が許されないが、国内でも食料価格の高騰やエネルギー不足（特にサハリンの天然ガス）問題などが起きている。行進中の宣伝カーでは、「原発を稼働させなくてもエネルギーは足りている」と言っていたが、やや実態とかけ離れているように聞こえた。東ヨーロッパに一日でも早く平和が訪れることを願うばかりである。



高砂中央公民館にて

■木曾駒ヶ岳（2956m）

- 日程：7月17日(日)～18日(月・祝)
- 参加者：A班L上田 SL待場 木村 笹木 佐野 澤田(律) 平石
B班L安田 SL高島 生永 黒本 苦瓜 村上
- 行動記録：
(17日)：千畳敷駅 12:00 発～八丁坂下 12:50～乗越浄土 13:40～宝剣山荘 13:45 着
(18日)：宝剣山荘 6:00 発～中岳 6:20～木曾駒ヶ岳(7:00 着)7:15 発～
宝剣山荘(8:05 着)8:35 発～千畳敷駅 10:00 着

◆高山植物が見頃の木曾駒

木村

今年は6月末に異例の速さで梅雨が明けていたものの、7月になってから戻り梅雨になり変な天候が続いていたので山行の日のお天気も心配でした。

リーダーからも「天気の状態は不安定ですが、好転することを願って行きます。」のメールが入りました。当日の朝は、木曾駒の登山指数がAになっていたのでも安心したのですが…。

名古屋から駒ヶ根に向かう高速バスで雨が降ってきて、駒ヶ岳ロープウェイを降りた千畳敷駅からは雨具を着て登ることになりました。

まずはすぐ近くの駒ヶ岳神社で登山の安全祈願をしてから出発です。

千畳敷カールは高山植物が見頃ですばらしかったです！チングルマ、コバイケイソウ、コイワカガミ、シナノキンバイ、ハクサンイチゲなど(そ



の他にも山頂まではいろんな花が咲いていましたが、名前は教えてもらっても覚えられず) 急な登りも花に癒されながら登っていきました。

乗越浄土まで来ると雨は小降りになっていましたが、ガスで何も見えませんでした。

宝剣山荘に着き雨具を脱ぐとホッとしました。夕方、山荘から外へ出ると、すーっとガスが流れていって、宝剣岳がきれいに見え、はるか眼下には町の灯りも見え、明日は晴れるかなとみんな期待しました。

2日目、外はガスに覆われていてがっかりしました。風も吹くなか山頂を目指しました。

山頂は晴れていたなら、乗鞍岳や北アルプス連峰が見えるそうですが、残念ながらガスに覆われて眺望はなし。でも、百名山木曾駒ヶ岳の山頂に立てました。

山頂からは濃ヶ池の方へ行く予定でしたが、悪天候のため断念して下山することになりました。下るにつれ、ガスや風もなくなり、みんなゆっくりと周りの花を楽しみながら下山しました。千畳敷駅からロープウェイとバスを乗り継いで降り、名古屋まで行く高速バスは予約していた時刻まで十二分に時間があつたので、近くの温泉で汗を流し、ゆっくりと食事をしてから、光苔で有名な光前寺に行き石垣の間に光る苔を見ることができました。今回の山行はいろいろな高山植物のほかに光苔のおまけもつきました。

帰りの名古屋までの高速バスは大渋滞にあい、新幹線の時間にやきもきしましたが、これも思い出の1ページになりました。

今回の山行は天候には恵まれませんでした。こんなにたくさんの高山植物を一度に見たのは初めてでした。

この時期に計画して下さったリーダー、ありがとうございました。

■早朝の鬘櫛山・苦編山縦走

＜女性委員会＞

- 日 程：7月18日(月・祝)
- 参加者：L島谷 SL徳本 乙坂 宮本
- 行動記録：播磨高岡駅(6:20着)～登山口6:30発～びんぐし山7:10発～もみとり山7:30発～西庄トンネル上・鉄塔2つ目7:55発～苦編山(8:30着)8:55発～城の台9:25発～本徳寺前9:50発～英賀保駅(10:05着)

◆清々しい早朝登山

宮本

兵庫県南部地方の最北端に住んでいる私にとって、早朝登山に参加することは相当早起きをして出かけなければいけないのですが、それでも今回の鬘櫛山・苦編山早朝登山に参加したのは、

- ・姫路出身なのにこの山々のことは全然知らない、しかも縦走ができる。
- ・暑い時期だけど早朝から登ると涼しくて清々しいかも。
- ・しかも午前中の早い時間に下山するので、その後も時間がたっぷりある。と思ったからです。

播磨高岡駅に到着しストレッチをして登山口へ。朝日がまぶしく照らして清々しいのですが、すでに思ったより暑いです。登山口からいきなり立派な鉄の梯子を登り、そして急登が続きます。一步一步確実にふみしめながら歩いているつもりだったのですが、時々ふらついている自分に気づきました。やはり朝が早かったのもまだ体が寝ていたのかもしれませんが。汗も噴き出てきています。大丈夫かな、と思っていると早めの休憩をとってくださいました。そこで気合

を入れ直さなきゃと思っていると「これを首にあてると冷たくて気持ちいいよ」と「冷シート」を首にあててくださいました。これがとても気持ちよく、汗がひっこみ体もシャキッと目覚めた感じになりました。

姫路の夢前川の東側にある鬘櫛山から初取山そして苦編山へと、北から南へ向けての縦走路。標高 200 メートルに満たない山々でしたが、登っては下り、下っては登りを繰り返す、見晴らしのよい岩場あり、地道あり、暗い感じになっている樹林帯あり。変化に富んだ登山道でとても歩き甲斐がありました。

姫路城や姫路市街地が一望に見渡せ、その向こうの桶居山もはっきりわかり、瀬戸内海の景色も北から南の方に歩くにつれて徐々にはっきり近くに見えてきました。目で見る景色も楽しめたのですが、耳で聞こえる音も楽しめました。それは新幹線の走行音です。新幹線がこの縦走路の真ん中あたりを東西に走っており、新幹線が通過するたびに「ゴォォ」と走行音が辺りに響いています。最初のうちは歩いている前方から聞こえていたのが、どんどん近づきそして次第に後ろから聞こえてくるようになり、自分たちが歩いて進んでいる証だな、なんて思いながら走行音を聞いていました。特に新幹線の線路の真上辺りでは、走行音がひととき大きく真後ろから覆いかぶさってくるように聞こえ、すごく迫力を感じ新鮮な経験でした。



2か月前に「初めての山登り教室」第1回実技登山で登った白毛山が近くに見えました。初心者で山のことを何もわかっていないのですが、この山行中所々で地図を広げて今どこにいるか、この後どのような道を進むか教えてくださり、地図を理解しながら歩くことの楽しみも知りました。リーダー様、そしてメンバーの皆さま、ありがとうございました。

■高御位山から夜景を眺めよう

＜ゆっくりリズム山行＞

- 日 程：7月23日(土)
- 参加者：A班L藤原(千) SL矢根 生永 笹木 澤田(律) 橋本(万) 福原 宮本
B班L島谷 SL安田 黒本 佐野 徳本 平石 村上
- 行動記録：成井登山口 18:05 発～十丁(18:30 着)18:35 発～山頂(18:55 着)19:10 発～
夜景観賞(19:15 着)20:00 発～成井登山口(20:40 着)

◆高御位山「夜景を眺めよう」山行に参加して

澤田(律)

7月23日(日)高御位山「夜景を眺めよう」を目的に山行が実施され、15名が成井登山口に集合した。

Lより「往路で登山道の石の配置や状況をよく見ておいて！暗くなると見えにくいので」と指導を受け登山開始する。

身近に登る機会の多い高御位山ではあるが、ナイト山行は初めての経験だった。皆さん其々に「いつもと違うね」とか「みんなと登ると早く歩けるように感じる」等々いいながら楽しく歩くことができた。また、時折涼しい風が通り抜け「涼しいね」とか話したり、カラスが多数高御位山の神社方向に飛んでいたりと、夕暮れ時を感じることができた。この日は気

温も通常より幾分低めで快適に感じた。

山頂に19時前に到着し、日の入りを待ったが厚い雲に遮られ残念ながら美しい空は望めなかった。それでも雲の隙間から明るい光が差し込み夕陽が望めるかもと期待したが全体を見ることはできなかった。夕陽の沈む場所の北や南、海等はわずかに薄くピンク色に染まっていてそれはそれで美しかった。また、大空を飛行機が行きかいそのあとにできる飛行機雲もいろいろな形や色を出し美しく夜でないと思えない風景を堪能できた。その後場所を移動し、明石海峡大橋や高砂市・加古川市を中心に黄昏時からライトやネオンが輝き始め徐々に姿を変えていく様を見ることができた。



みんな「あれが明石大橋」「橋の色がきれい」「何万ドルの夜景だろう」等話しながらゆったりと夜景を楽しむことができた。20時頃に記念写真を撮影後下山しようとしたとき「ドン」と音がし、東の方向に打ち上げ花火が次々に上がるのが見えた。「どこだろう」「稲美町かも」等話しながら楽しんだ。いつもなら花火は見上げてみるのが多いが山から見下ろしてみる花火も綺麗で、いつもと異なる花火を楽しめた。

ナイト山行は暑い日々を忘れ、涼感を感じながら非日常の時間を過ごすことができた。お世話頂いたL・SLに感謝します。

■六甲逢山峡 沢歩き

- 日 程：7月31日(日)
- 参加者：L安田 SL藤本 小田 乙坂 佐野 高島 田中(重) 徳本 春本 平井 矢根
- 行動記録：有馬口駅 9:40 発～東山橋入渓口(10:00 着) 10:25 発～飛び込み岩(11:00 着)
11:30 発～東山橋(12:00 着) 12:30 発～猪ノ鼻滝(12:50 着) 13:30 発～有馬口駅 14:00 着

◆六甲逢山峡(ハウザンキョウ) 沢歩き 感想文

平井

6月の例会に沢歩き申し込みあり、過去に草木川など参加したかったが、道具も無いしと思いつつ躊躇してました。自分としては山行経験で沢歩きは未経験なので、思い切って参加表明しました。

当日ちかくなりさて、靴をどうしようか？

好日山荘に飛び込むも沢靴は扱ってない、意外とマイナーな遊びなんだ！

途中 そんなに沢歩きのジャンル、これからもたいしていかないだろう！と思い結局新規出店の網干の釣り道具屋さんで、比較的安い防水靴を購入。

沢はフェルト底でないといふと滑る！とは聞いていたが、子供の頃せせらぎで遊んだ経験から高をく

ぐってました。

実際は岩に付着した苔？で足元救われるし、砂がジャンジャン靴に入り、最後はやむなく裸足になりアベベ状態でした。「いつも失敗する安物買いの銭失い」 又もや猛省！！

さてまずは集合場所の日岡山第一公園駐車場に集合
かって入所していた加古川刑務所の前でした（違うよーん！ 仕事で昔、装置の設置した）
日岡山公園は大きい施設、駐車場も広く無料、good！ 初めてきた人もおられ、気にいられた様です。

ここから3台の車に分乗し、なんと下の道使い、有馬口までの約一時間のドライブ、加古川沿いを北上、三木市を横断し神戸市北区に抜けました。高速代もいらないし渋滞知らず、いい道を教えて頂き、タカミクラのフジモンに感謝！！ 神鉄有馬口駅近くのコインパーキングに到着、地道を徒歩30分程でストレッチ場所橋の上、ここより入水 幸いカンカン照りではなく、沢歩きには最適気候でした。



途中サブリーダーのフジモン！
早々に胸まで入水してるのを見て、
びっくり！ 達人！

僕たちはゆっくり上流へと、滑る足を恐る恐る川歩き そのうち少々
の入水はどうでもよくなり、胸まで水につかり、爽やか！ 砂防ダム
の滝に出くわし、日頃の悪行を滝行で少しは洗い流せたでしょう？！！

時間も残り一端川を上がり、歩いて上流の滝滑りの場所に連れていかれた。

普段より水量が少ないというものの、滝の最大落差10M！ 途中より岩に体がすっぽり収まる激流に、ドド？の体を水に身を任せ、激流すべり 約1秒最後に僕だけは、わずかにジャンプし滝どまりに沈んだ。老若男女みんなの「桃源郷！」わいわい何度も滝滑りに大興奮 ほんと楽しい一日を過ごさせていただきました。

普通より水量が少ないというも

企画指導同行頂いたYリーダー、Fサブリーダーに感謝感謝です。ありがとうございました。

【おまけ】 無学な僕は逢山狭の読み方が気になったが、NETでは探さることが出来なかった。何人かにお聞きし調査「逢」を音読みで「ホウ」と読むことが判明、今まで時々、漢字の読み、書きでスカスカの頭を悩ます事多くあり！音読み、訓読みの意味も再度勉強し、あらためて日本語の難しさにふれ、小学校を再度行きなおした気分です。

付録：ネットで見つけたリーフレット添付します。ためになりました。

音読みと訓読みの区別まとめ

- ① 基本的にはこう考えよう
それだけで意味の分かる読み方 ▼訓読み
それだけでは意味の分からない読み方 ▼音読み
- ② 鉄板パターンを覚えておこう
漢字が必要な読み方 ▼訓読み
読み方が4字以上 ▼訓読み
(壁をいうと音読みの読み方は必ず3字以下)
濁音やフ行で始まる読み方 ▼音読み
- ③ わりと多い「読みが二拍の場合」
小さい「やよ」(拗音をふくむ読み方) ▼音読み
二拍目(実音)が「ンチクキツイ」 ▼音読み
二拍目(実音)が「ンチクキツイ」以外 ▼訓読み

■八ヶ岳全縦走

●日 程：7月30日(土)～8月4日(木)

●参加者：L上田 SL三木(悦) 島谷 村上

●行動記録：

(30日)：JR三ノ宮駅 20:00 集合～どっどこむライナー20:30 発

(31日)：JR松本駅 4:30 着～JR茅野駅～タクシー～蓼科山登山口7合目 7:50 発～

蓼科山荘(9:30 着)9:50 発～蓼科山山頂(10:30 着)11:25 発～

蓼科山荘(12:00 着)12:15 発～大河原峠(13:30 着)13:50 発～双子山(14:30)～

双子池ヒュッテ(15:15 着)

(1日)：双子池ヒュッテ 6:30 発～亀甲池(7:15 着)7:25 発～北横岳(9:20 着)9:40 発～

北横岳ヒュッテ(9:35 着)10:05 発～坪庭 10:35～八丁平(11:05 着)11:20 発～

縞枯山(12:00 着)12:10 発～茶白山(13:05 着)13:15 発～麦草峠(14:10 着)

14:40 発～丸山(15:50 着)16:00 発～高見石小屋(16:20 着)

(2日)：高見石小屋 6:55 発～中山(8:15 着)8:30 発～中山峠(9:10 着)9:20 発～

東天狗岳(11:00 着)11:25 発～根石山荘(12:10 着)12:55 発～夏沢峠(13:35 着)

13:45 発～硫黄岳(15:05 着)15:15 発～硫黄岳山荘(15:35 着)

(3日)：硫黄岳山荘 4:55 発～横岳・三叉峰(6:28 着)～地蔵の頭(7:47 着)7:48 発～

赤岳(9:30 着)9:34 発～キレット小屋(11:44 着)12:01 発～

権現小屋(14:20 着)14:22 発～青年小屋(15:49 着)

(4日)：青年小屋 6:41 発～押手川(8:10 着)8:11 発～雲海展望台(8:48 着)9:02 発～

観音平(9:45 着)

◆蓼科山～北横岳～縞枯山～茶白山～東天狗岳～硫黄岳山荘へ 村上

【31日】 蓼科神社の鳥居をくぐり抜けて登山道に入り、いよいよ長い縦走のスタートです。馬返しまでは小鳥のさえずりを聴きながらシラビソやコメツガの原生林の中を歩く登山道でしたが天狗の露地からは黒い溶岩が登山道を埋めるゴロゴロ岩の急登で難儀しました。

将軍平の蓼科山荘から頂上ヒュッテまでは、更に岩の急登となり遠くから眺める山容とはかけ離れた岩山で高所恐怖症の方には登れない山です。頂上火口は岩がゴロゴロで火口中頃には祠が祀られ展望台からは360度の大展望です。八ヶ岳の山並み、南、中央アルプスの峰々北アルプスを背に霧ヶ峰や美ヶ原のたおやかな高原が見渡せる。岩の間にはアキノキリンソウやハクサンフウロも可憐に咲いている。爽やかな風の中でのランチの時間です。

縞枯れの森を抜けて大河原峠へ下り緩やかな道を登り双子山山頂へ。吹き抜ける風が心地よく暫くぼんやりしたい気分でした。笹に覆われた下山道は足元が見えない程です。15時過ぎに双子池ヒュッテ到着。部屋の中には一人用テントが用



意されていて半分テント泊の気分を味わいましたが 夜は雷と大雨で寝付けませんでした。

【1日】 朝もやのたなびく亀甲池から北横岳までは急登で苔むした森の中をただひたすらに登りました。頂上からは昨日登った蓼科山が綺麗です。これから行く八ヶ岳も青空にはっきりと望めます。坪庭のハイキングコースを抜けて雨池峠で昼食となりひと休みです。縞枯山頂上まで滴る汗を拭く間もなく登り、見上げると見渡す限りの苔の森の中でした。しばらくゆったりと下り同じくらいの急登を喘ぎながら登ると茶臼山山頂です。近くに展望の良い岩場がありました。遊び心で皆で登りました。下りは大石峠を抜けて苔の森を麦草峠まで下ると車道に出ます。麦草ヒュッテでアイスクリームを食べてひと休み。標高差200メートルの丸山の苔の森を汗だくになりながら登りました。しばらく下ると16時20分頃高見石小屋到着です。



小屋の裏には岩山がありますが、皆登る元気がありません。部屋は2人ずつカーテンで仕切られています。食事はどの小屋も美味しいし、多すぎて・・・夕方から雨が降りだし食事のテーブルにも雨漏りです。星が見える天窓が雨漏りの原因とのことです。寝床に入っただけで雷と大雨です。滝のような雨に天窓から雷の雷光がひかり「ドカーン」小屋に雷が直撃しました。小屋のスタッフは雨漏りの桶を持って右往左往していました。ランプの宿ですが、電気系統がダメになりました。

【2日】 朝は昨夜の雷が嘘のように晴天ですが、登山道は水が流れていて、水の流れの中の飛び石を渡るように暫く登りました。登山道に水がなくなった頃周りをみれば幻想的な苔の森でした。中山山頂も抜けるような青空です。しばらくの間見渡す限りの展望にうっとりです。目指す天狗岳も美しい山容です。岩をワッシワッシと登りました。東天狗岳頂上に着いた時は、やっとここまで辿り着いたとホットしました。ここからは以前の登山の逆コースです。岩尾根を細心の注意で歩き、途切れた登山道には橋が掛けられていました。コマクサの咲く根石岳山荘でそれぞれ昼食です。

夏沢峠を過ぎて左に爆裂火口を見ながら硫黄岳山頂に立った時、身体はもうヨレヨレです。15時半頃コマクサの咲く硫黄岳山荘に到着です。部屋は4人部屋。シャワーを浴びて皆さんスッキリ顔です。お布団も清潔です。遠くの山に雷が光りますが今夜の小屋は何事もなくふけそうです。

◆赤岳とキレット下り

島谷

8月3日は山行の核心部分、赤岳を目指します。早朝、雲海をオレンジ色に染める日の出を見ながらストレッチをし、今日1日の晴天と安全を皆で願いました。横岳へ向かう道、この辺りのコマクサは大きな株できれいでしたが岩登りを前にゆっくりもできず急登を進みます。ここからはもう北アルプスを望むことはできませんが、かわりに富士山が現れました。写真に納

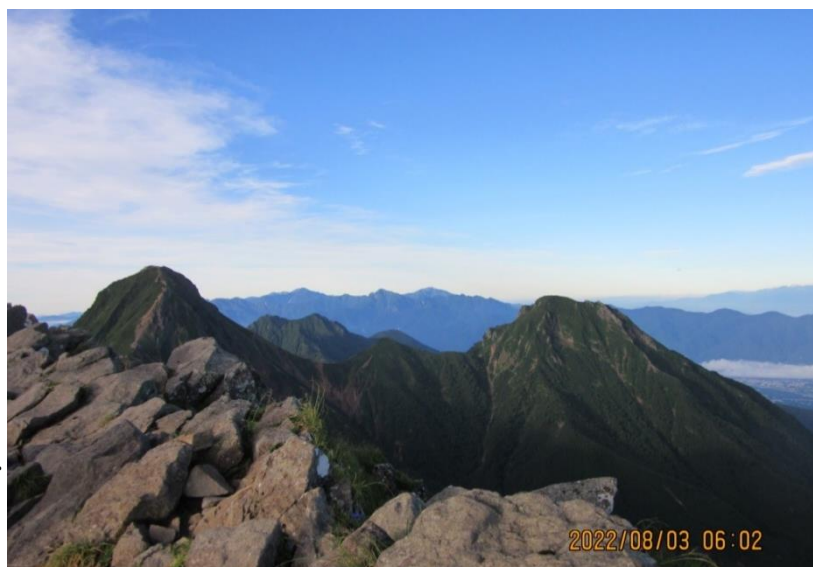
まりきれない「赤岳と富士」にしばしうっとりしましたが、Lの「さあ行くぞ」に気合と緊張を感じ、頭のヘルメットを再確認しました。横岳手前でいよいよ岩や鎖です。まだ登山者がほとんどいないことと私達が少人数であることで、とても落ち着いて慎重に進めます。赤岳へ向かう尾根道は、強風の中で龍が天へ向かって山道に長く居座っているかのように見え、また、うすい靄（もや）がかかった頂上手前の赤岳頂上山荘はまさに「天空の要塞」と呼ばれる雰囲気を出しています。赤岳登頂時には4人満面の笑みでグータッチ、まだこの時は、皆元気だったのです。

ここからキレット小屋（休業中）までの下り2時間の岩岩岩、梯子・梯子、鎖鎖鎖、落ちたらアウト？。緩急なく、緊張のみの時間でした。何とかキレットをやり過ぎ小屋前でおにぎり昼食ですが、朝のスタートからすでに7時間近くたっており、皆、結構な疲れ様です。やっとおにぎりを流し込み、今夜泊の青年小屋まで進むしかありません。北の方から黒い雲がせまって数滴ポツリと雨を感じました。まだ、長い長い鉄梯子がのこっているらしく、LもSLも険しい顔つきです。しかし、やはり私達は幸運なようで、それ以上に雨にあたることはなく落ち着いて鉄梯子に取り掛かることが出来ました。梯子を支える、岩からの支柱がとても長く、梯子を上っていると宙に浮かんでいるかのような錯覚を覚えました。梯子が終わってもその岩場が広いわけではなく、少人数で心して歩くべき道だと再認識しました。間もなく青年小屋が見えてきました。まだ峰を越さなくてはたどり着けません。一步一步、滑らないように歩きました。小屋前に着いた時、ストレッチをするより前に皆で座り込み「今までで1番厳しい山やった」「疲労困憊」「八ヶ岳縦走はもういいわ」「えらかった」と、その時の正直な気持ちを出し合い、疲れの中にもそれぞれ自分の頑張りに満足されているのだと感じました。私は心身ともに疲れ切り、ため息のような息を吐き続け、小屋に入るとカイロを抱いて寝ていました。最終日は、大きな岩だらけの編笠山を越えて観音平で下山となる予定でした。しかし、山頂は雲にかくれ怪しい空模様でもあり、疲れた脚で雨の中の大岩を下るのは危険です。安全のためにも編笠山の巻道を下ることに誰も異議なしでした。雨に濡れて緑鮮やかな森を標高800m程下り、観音平に着いた頃には太陽が照って「天空から夏に帰って来た」感じでした。

迷いもせず八ヶ岳縦走に参加希望をしました。経験者に囲まれ、私は初めての八ヶ岳。山の並びすら理解できていなかったため、山行中に皆さんの足を引っ張ることのないよう地図と映像で繰り返し予習をして山行に臨みました。いい経験をたくさんさせてもらい、感謝しかありません。長い歩きの中で次につなげる反省もみつけました。私にとって、大きな財産になる山行になりました。

【前】左より赤岳・中岳・阿弥陀岳
【中間】権現岳・ギボシ・編笠山
【後】南アルプス 北岳・甲斐駒ヶ岳・
仙丈岳

—横岳より



2022/08/03 06:02